

# 支援のお米 ぎゅっと結んで

## 児童館でおにぎり提供

越前市社会福祉協議会と越前市は、市内の計15の児童館で、「フードドライブ」で寄せられたお米で作ったおにぎりを無料で提供している。子どもに和やかなひとときを過ごしてもらおうとともに、児童館を通じて見守りの輪を広げようという取り組み。各館で食品の寄付も受け付けている。

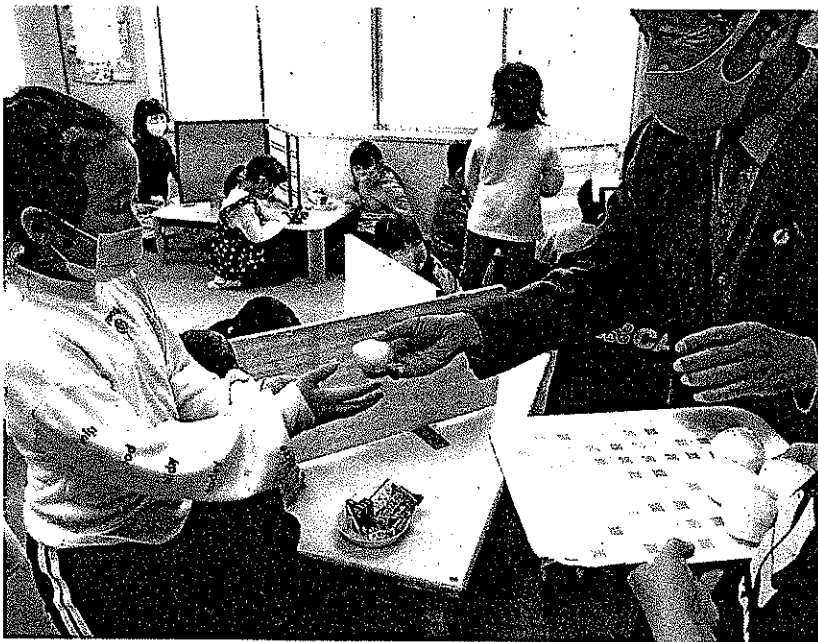
市社協は指定管理者として、市内の計15の児童館・児童センターの管理・運営を担っている。「おむすび(結び)プロジェクト」と名付けた取り組みは10月下旬に始めた。児童館や児童センターで月2回、おやつの時間(午後3時～4時ごろ)にあわせて、小さなおにぎりを配っている。

おにぎりは、市民らに家庭で眠っている食品などを寄付してもらって「フードドライブ」で集まったお米を使い、市内の障害者就労支援施設で作っている。

3日には、市中心部にある武生東児童センター(国府2丁目)で、学校の授業を終えてやってきた小学1、2年の児童18人がおにぎりを味わった。

各児童館や児童センターでは、家庭で余った食品などの

### 越前市社協など フードドライブ呼びかけ



寄付を受け付けている。賞味期限が1カ月以上残っている、常温で保存できる食品が対象。乾麺やレトルト・イン

スタント食品、缶詰、お米などの寄付を呼びかけている。集まった食品は、おむすび(結び)プロジェクトや子ども食堂、ひとり親世帯への支援などに生かす。

プロジェクトを担当する市社協総務管理部の村下誠一課長は「子どもたちに気軽に児童館に来てもらいたい。そうすることで見守りの輪を広げていければ」と話した。

(八百板一平)

おにぎりを受け取る子どもら＝越前市国府2丁目